

第54回マーチングバンド全国大会 大会概要

大会名称	第54回マーチングバンド全国大会
大会日程	2026年12月19日（土）・20日（日） 19日（土）小学生の部・中学生の部（入れ替え制） 20日（日）一般の部・高等学校の部（入れ替え制）
開催場所	クロコくんホール (旧 日本ガイシホール) 〒457-0833 南区東又兵衛町5丁目1番地の16
主催	一般社団法人日本マーチングバンド協会
特別協賛	株式会社フォトクリエイト・株式会社ヤマハミュージックジャパン
趣 旨	<p>○小学生の部 音楽への憧憬を大切にし、マーチングを通して幅広い音楽表現活動を体得するとともに協調性・忍耐力を培う。</p> <p>○中学生の部 音楽への憧憬を大切にし、豊かな音楽表現活動を通して協調性・責任感を育みながら生きる力を培う。</p> <p>○高等学校の部 音楽表現の可能性を追求し、より高い音楽性や技術を身につけ自主性と創造性を培う。同時に音楽文化の発展と地域社会の活性化に貢献する。</p> <p>○一般の部 音楽表現の可能性を追求し、より高い音楽性や技術を身につけ自主性と創造性を培う。同時に音楽文化の発展と地域社会の活性化に貢献する。</p>

日 程

〔1〕参加団体打ち合わせ会議

オンラインにて開催する予定です。日時については後日ご案内いたします。

※出演順は支部長による支部別出演順抽選会の際に部門ごとに抽選の上、「〇〇支部代表 1」「〇〇支部代表 2」といった表記で決定いたします。

注 1. 実際に支部大会より選出された代表団体は(小・中・大)編成により前後する場合があります。

〔2〕大会日程 (予定)

	9:45				19:00	
○12月19日(土)	開 場	開 会 式	小学生の部	入 れ 替 え	中学生の部	終 了

	8:50				19:30	
○12月20日(日)	開 場	開 会 式	一般の部	入 れ 替 え	高等学校の部	終 了

※参加団体数により時間が変動することがありますので予めご了承ください。

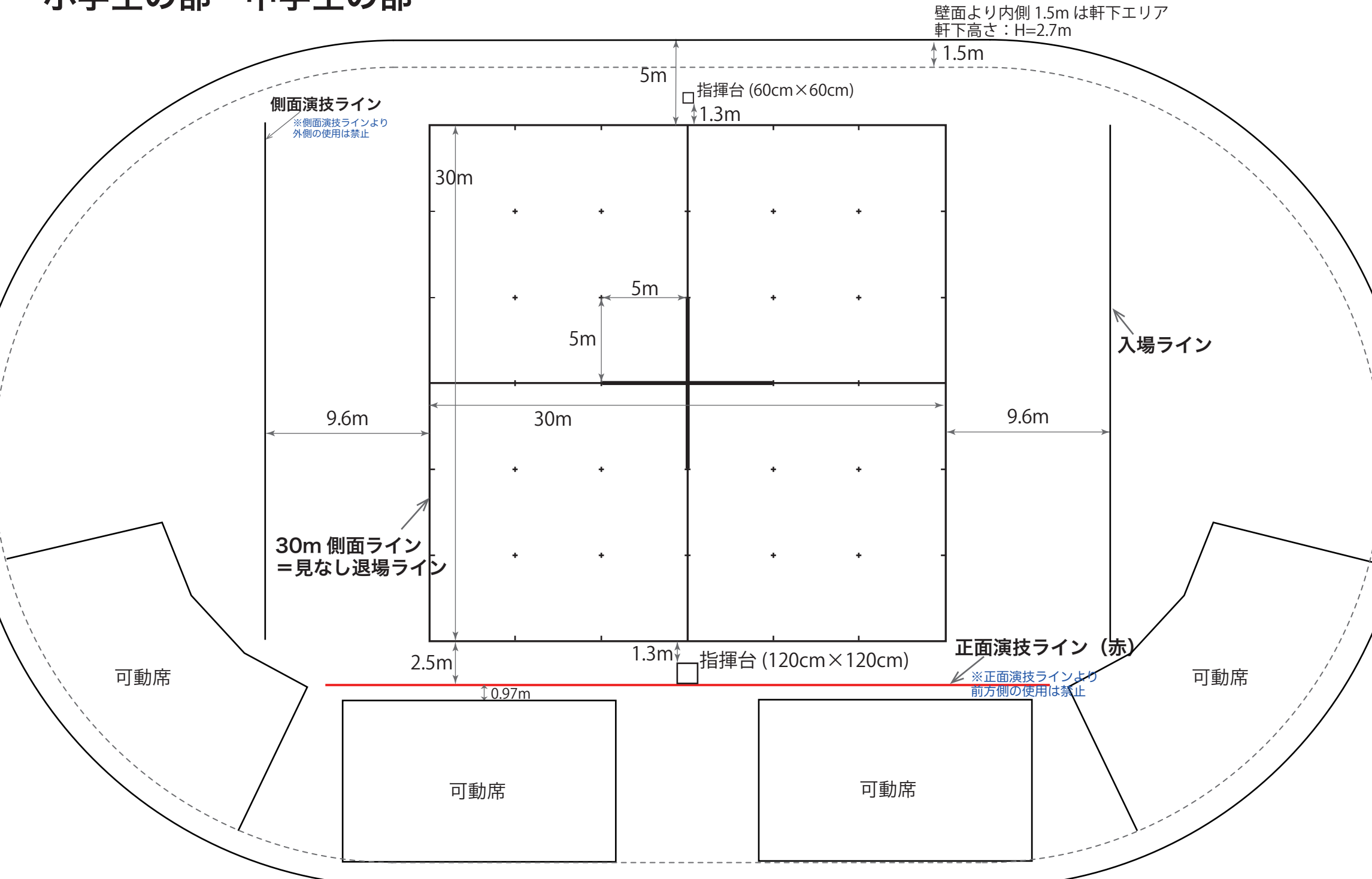
支部別出場枠

<div style="display: inline-block; transform: rotate(-45deg);"> 卒 数 支 部 </div>	小学生	中学生	高等学校	一 般	合 計
北海道	1	1	1	1	4
東 北	10	2	3	2	17
関 東	13	9	9	6	37
東 海	1	2	4	4	11
北 陸	1	1	1	1	4
関 西	2	2	3	2	9
中 国	1	1	3	1	6
四 国	1	1	1	1	4
九 州	1	1	5	1	8
沖 縄	1	1	1	1	4
合 計	32	21	31	20	104

※上記記載の出場枠の他に、一般社団法人日本マーチングバンド協会が必要と認めた場合は出場を認めることがある。

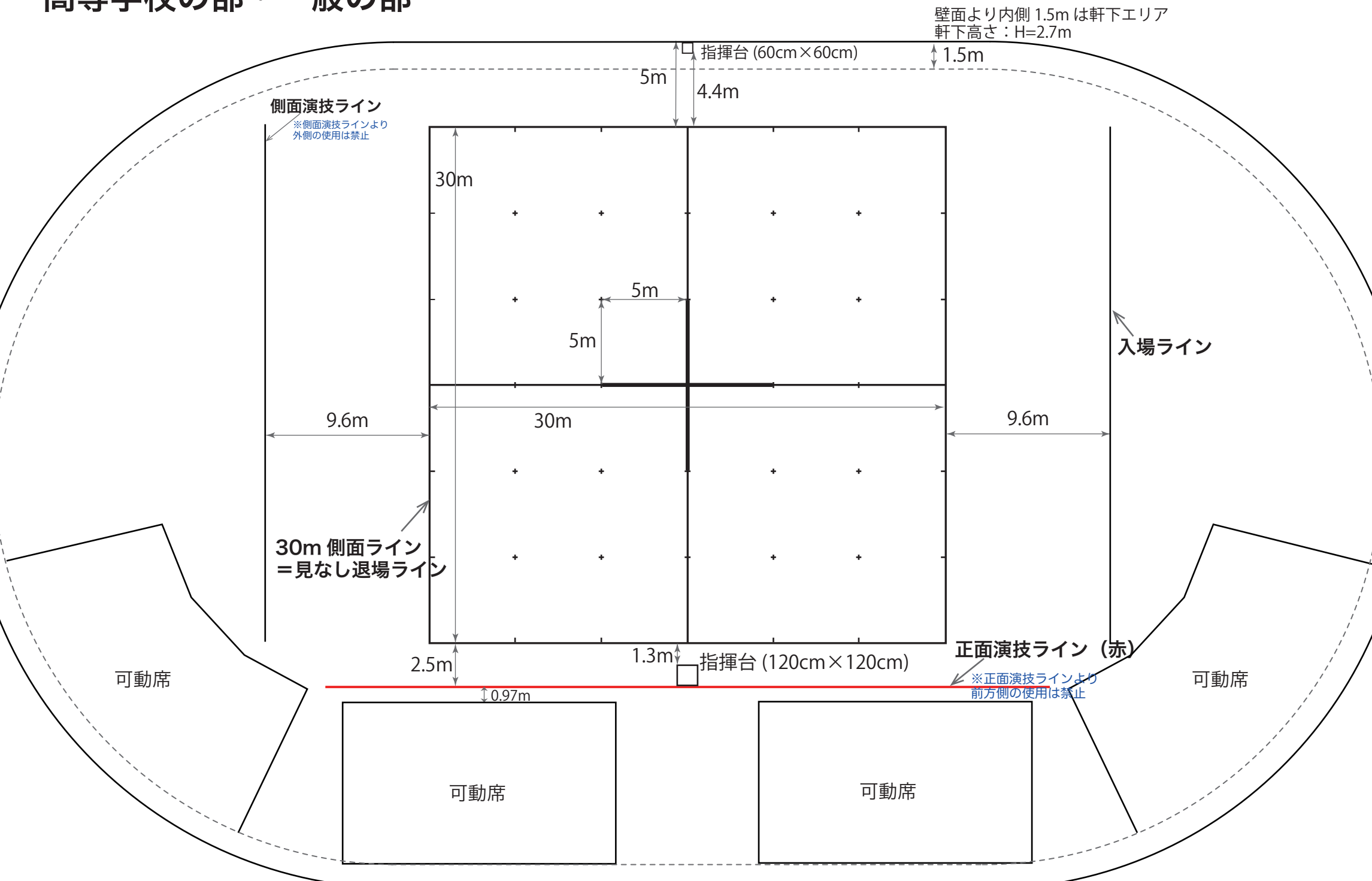
第54回マーチングバンド全国大会 演技フロアー図 (予定)

小学生の部・中学生の部



第54回マーチングバンド全国大会 演技フロー図 (予定)

高等学校の部・一般の部



実施規定

1. 参加資格

(1) 2026年9月1日現在一般社団法人日本マーチングバンド協会に団体加盟登録していること。

※大会参加は加盟登録名で参加すること。

(2) 支部または一般社団法人日本マーチングバンド協会より推薦されていること。

(3) 構成メンバーは年間でその団体に所属している事。(短期メンバー補強は不可)

(4) 下記の参加手続きをそれぞれ期限内に終えていること。

提出期限

- ・支部大会が2026年10月25日までに終了している場合：10月27日(火)まで
- ・支部大会参加が2026年10月31日(土)～11月1日(日)の場合：11月3日(火)まで
- ・支部大会参加が2026年11月3日(火・祝)の場合：11月5日(木)まで
- ・支部大会参加が2026年11月7日(土)の場合：11月9日(月)まで
- ・支部大会参加が2026年11月8日(日)の場合：11月10日(火)まで
- ・支部大会参加が2026年11月14日(土)の場合：11月16日(月)まで
- ・支部大会参加が2026年11月15日(日)の場合：11月17日(火)まで

参加手続き内容

- ① 参加申込書の提出
- ② 団体参加費の納入…1 団体につき 10,000 円を納入する。
- ③ 個人参加費の納入…構成メンバー及び登録引率者は1名につき 1,100 円を納入する。
※個人参加費納入者には、プログラム・参加章を渡し、傷害保険に加入する。
- ④ 参加申込データの提出
 - ・構成メンバー登録…当日の構成メンバー数は登録人数以内であること。
※構成メンバーとは、当日演技フロアに入場し演奏演技及び指揮を行う者とする。
※フロアに入場できる人数は登録人数以内とするが、メンバーの変更は認める。
 - ・音楽著作権使用許諾に関する確認
 - ・特殊効果申請
 - ・プログラム掲載事項
 - ・その他大会実行委員会が指定した書類の提出

※上記の書類において提出後の追加及び変更は認めない。但し特殊効果に関する書類の変更は11月17日(火)までは認めるが、それ以降はいかなる理由でも認めない。

また構成メンバーの登録人数の減少は当日のチェックインシートに記載の上受理する。

(上記期限までに参加手続きを終えていない場合は「6. 罰則 (3) 注意又は警告」に該当する)

(5) 団体及び構成メンバーの全国大会への参加は1回とする。

但し、以下の場合においては重複参加を認めることとする。

※ゲスト及びセレモニー等に参加する場合

※自身が演奏演技者として登録される部とは異なる部において、指揮者・副指揮者として参加する場合（その場合、参加費は各々の団体において発生する）

2. 構成と編成

(1) 各部メンバー構成と指揮者

★小学生の部★

①単一加盟団体の小学生構成

②複数加盟団体の合同小学生構成

③指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、小学生以外の指揮者は指揮を行えるが演奏演技をしてはならない。（入退場時の楽器・器物の搬入及び搬出は可）

★中学生の部★

①単一加盟団体の中学生構成

②複数加盟団体の合同中学生構成

③単一加盟団体の小・中学生構成

④複数加盟団体の合同小・中学生構成

⑤指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、小中学生以外の指揮者は指揮を行えるが演奏演技をしてはならない。（入退場時の楽器・器物の搬入及び搬出は可）

★高等学校の部★

①単一加盟団体の高等学校団体

②同一学校法人内の高等学校及び中学校による合同構成

③複数の公立高等学校による合同構成（公立高等学校の統廃合に伴う移行期間中）

※上記のような特殊事情がある場合に限り、合同による出場を認める

④指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、生徒以外の指揮者は指揮を行えるが演奏演技はしてはならない。（入退場時の楽器・器物の搬入及び搬出は可）

★一般の部★

①単一加盟団体による構成。但し、未就学児は除く。

(2) 人数編成

※編成についての留意点

小学生の部・中学生の部における小編成・大編成及び高等学校の部・一般の部における小編成・中編成・大編成の区分は、全国大会における編成（人数）を確認の上、編成別登録を行うこと。

★小学生の部★

- ・ 小編成（指揮者を含めて 40 名以内）
- ・ 大編成（指揮者を含めて 41 名以上 100 名以内）

※小編成・大編成の順で演技する。

★中学生の部★

- ・ 小編成（指揮者を含めて 40 名以内）
- ・ 大編成（指揮者を含めて 41 名以上 100 名以内）

※小編成・大編成の順で演技する。

★高等学校の部★

- ・ 小編成（指揮者を含めて 40 名以内）
- ・ 中編成（指揮者を含めて 41 名以上 80 名以内）
- ・ 大編成（指揮者を含めて 81 名以上 150 名以内）

※小編成・中編成・大編成の順で演技する。

★一般の部★

- ・ 小編成（指揮者を含めて 40 名以内）
- ・ 中編成（指揮者を含めて 41 名以上 80 名以内）
- ・ 大編成（指揮者を含めて 81 名以上 150 名以内）

※小編成・中編成・大編成の順で演技する。

(3) 楽器編成

①楽器編成は自由とする。

②シンセサイザー、エレクトリックピアノ、エレクトリックギター、エレクトリックベース等の電源を必要とする電子楽器、及びピアノ、オルガン、ハーブシコード、チェレスタ等の重量のある鍵盤楽器は使用不可とする。

その他類似するものがある場合は、実行委員会に問い合わせること。

③ビブラフォンは電池・モバイルバッテリー・ポータブル電源の使用を認める。

施設の電源は使用不可。

3. 演奏演技

- (1) 演技フロアは別記の通りとする。(演技フロア図参照)
 ※正面演技ラインより前方側の使用は禁止する。※側面演技ラインより外側の使用は禁止する。
- (2) 演技フロアへの入場は構成メンバー、登録引率者及び搬入搬出補助員のみとする。
 ※搬入・搬出時の登録引率者及び搬入搬出補助員等の演技フロアへの入場については「5. 搬入・搬出」を参照のこと。

(3) タイム

計時は構成メンバー・登録引率者・搬入搬出補助員、もしくは楽器・器物のいずれかが最初に入場ラインを越えた時点から、全員が見なし退場ラインを越えるまでの一括計時とする。

小学生・中学生の部：8分以内

高等学校・一般の部：9分30秒以内

①計時開始

入場開始合図のジングル＝アラーム音の終了をきっかけ（係員の合図あり）に、構成メンバー・登録引率者・搬入搬出補助員、もしくは楽器・器物のいずれかが最初に入場ラインを越えた時点。ジングル終了後は速やかに入場を開始する。

②演奏演技開始

審査準備のため、入場開始後1分間は演奏演技を開始することができない。

入場開始後の演奏演技不可時間1分間は、審判員による白旗、及びアリーナビジョンでのカウントダウン表示にて明示する。万が一アリーナビジョンでのカウントダウン表示が不可になった場合には、審判員による白旗合図を優先する。

入場開始から30秒後→白旗を水平に上げる

入場開始から50秒後→白旗を垂直に上げる

入場開始から1分後 →白旗を振り下ろす

以降は演奏演技開始可能。

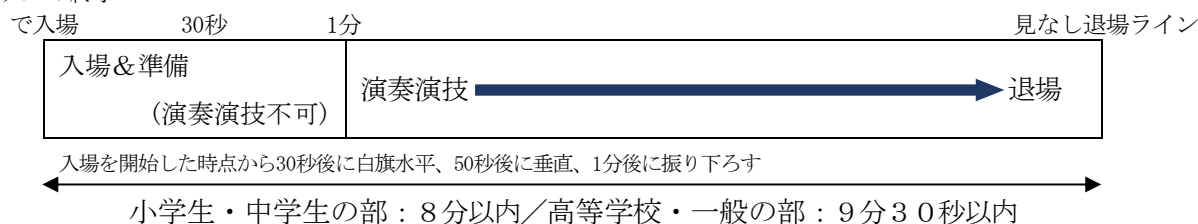
③計時終了

演奏演技終了後、すべての構成メンバー・登録引率者・搬入搬出補助員、及び楽器・器物が見なし退場ラインを越えた時点。

最後のメンバー及び器物等が見なし退場ラインを越えてからの演奏演技は不可とする。

※退場ゲートを出てからの演奏演技は不可。

ジングルの終了



入場開始合図のジングル:<https://www.youtube.com/watch?v=aJh945q2cko>



4. 手具・器物・特殊効果関連

「手具」とは…

演奏演技者個人が容易に携帯でき、自らが用いる小道具類を手具とする。

「器物」とは…

楽器・手具類・ユニフォーム類のどれにも属さず、演奏演技者以外の物を総称して器物とする。なお、楽器や楽器運搬台に装飾を施した場合は器物とみなす。

「特殊効果」とは…

フラッシュ・ストロボ・各種ライト類（ケミカル類含）等の光の効果を用いたもの及びサイレンを特殊効果とする。使用する場合は参加手続きで申請が必要。

(1) 演技フロアに搬入する器物については、次に示す規格以内の大きさとする。

※規格：1m80cm × 1m20cm × 1m50cm以内の立体

- ①器物を重ねたり密着したりして並べる場合は、その状態が規格内の大きさであること。
- ②器物と繋がっている布は器物としての制限を設けない。
- ③器物と器物を布で繋ぐことは禁止とする。
- ④フロアに敷く布は器物であるが制限を設けない。
- ⑤器物・手具等の上で演奏演技する場合は1m20cmを上限とする。

(2) 特殊効果は使用方法・数量等の詳しい説明書を事前に大会審査委員長に提出すること。

- ①化学反応で発光するケミカルライト類はその安全性が製造メーカーによって保証されているもののみ使用できる。
- ②施設の電源は使用不可。乾電池・モバイルバッテリーの使用を認める。（ポータブル電源は不可。）使用の際はその安全性が製造メーカーによって保証されているものに限る。
- ③火気・ガス類・液体類及び固形燃料類は使用を禁止する。
- ④乗り物（自転車・バイク・ローラースケート・スケートボード等）、ドローン等リモコンで操作されるもの、動物は不可。

(3) 正副指揮台は、大会本部が設置したものを設置した場所から移動することなく使用すること。

大会本部が設置した指揮台では指揮以外の使用は不可とする。※詳細はP.13参照

その他の場所での指揮台使用は、各団体での持ち込みを可とする。

(4) 国旗等の使用は敬意を損なわぬよう最大限に注意をすること。尚、フラッグ等に用いる場合は原形での使用を禁止する。

(5) スパンコールやビーズ等衣装の付属品は、他の団体の演技の妨げとならないようにすること。

※会場の仕様やフロア施工方法の理由により、フロア前方に僅かな段差や、リノリウムの継ぎ目には数ミリの隙間があります。プロップや楽器運搬台にキャスター（車輪）を使用する場合、本体の大きさや重量に合った径をご使用ください。小さい径のキャスターはご使用をお控えください。器物をご使用になる場合、必ず転倒や落下防止等の安全対策を施した上でご使用ください。

5. 搬入・搬出

- (1) 楽器・手具・器物の搬入搬出は安全かつ迅速に行うこと。また責任を持って搬入搬出をすること。尚、ここでいう搬入搬出とは演技フロアへの入退場だけのことではなく、会場への入場から退場までの全行程のことを指す。
- (2) 全参加団体は、登録引率者および搬入搬出補助員を登録することができる。
 「登録引率者」とは…… 会場到着時から会場退出時までの全行程を引率する責任者をいう。
 1 団体**5名**まで登録することができる。
 「搬入搬出補助員」とは… 楽器・器物の搬入搬出の補助のみを目的としたスタッフをいう。
 1 団体**10名**まで登録することができる。
※搬入搬出補助員が、客席にて観覧をする場合、入場券を購入しなければならない。
- (3) 登録引率者及び搬入搬出補助員は、入退場時の搬入搬出補助を行うことができる。演奏演技中は、フロア正面に設ける席にて待機。演奏演技時間内の補助は禁止とするが、演技中にトラブルが発生した場合は、「7. 演技中に発生した事故について」を参照。演奏演技終了後は、搬出補助を迅速に行う。

6. 罰 則

- (1) 違反失格
 ①実施規定「2. 構成と編成」に反した場合
- (2) 減点
 違反1回につき得点から1点減点
 ①実施規定「3. 演奏演技」に反した場合
 ②実施規定「4. 手具・器物・特殊効果関連」に反した場合。
 ③タイムオーバーについては、5秒以上超過した場合1点減点とし、以後5秒毎に1点減点する。なお、事故発生によるタイムオーバーの場合は適用しない。
- (3) 注意又は警告
 ①大会実行委員会が設けた規定、指示に従わなかった場合。
 ②他の参加団体に迷惑となる行為のあった場合
 ③非社会的な行為、大会主旨に反する行為のあった場合
 上記に該当した団体は、実行委員会が警告書を発送する。
 ※2回連続警告を受けた団体は、次回大会に出場する資格を失うこともある。
 ※具体的な警告例 ・期限までに参加手続きを終えていない団体
 ・会場を著しく破損や汚損をした団体
 ・適切なゴミ処理ができなかった団体

7. 演技中に発生した事故対応について

(1) 落下物撤去

演奏演技中の不慮の落下物について、演技者に危険がおよび自ら撤去できない場合は、登録引率者もしくは搬入搬出補助員がフロアーに入って撤去することができる。

(2) 衝突・転倒などによる演技者の不慮の事故

演奏演技中に器物や他の演技者への衝突、転倒などにより被害が拡大しそうな状況、また演技者が重篤な状態に陥った場合には、登録引率者もしくは搬入搬出補助員がフロアーに入ることができる。危険を回避するための行動による演奏演技の乱れは審査に影響しないものとする。それより先に係員が救助に入る際は、演奏演技の誤判断を避けるために参加団体側への確認が必要とされる。

また、これ以上演奏演技を続け危険が生じると判断された場合には、実行委員会の判断で演技の中断を連絡することができる。その場合の演奏演技再開に関しては、実行委員会と審査委員会の協議により判断される。

(3) 演奏演技の中断・再演技

実行委員会の判断による中断、または自然災害による中断以外は、原則として再演技は認められない。

(4) 設置ミスによる指示

登録引率者及び搬入搬出補助員は楽器・器物の設置後、正しい位置に設置できたかを確認することができる。万が一、設置場所などに誤りがあった場合には、事故を防止する観点から演奏演技開始前にフロアーに入って指示ができる。

但し、演奏演技開始後の補助は認めない。

(5) その他

この安全対策はあくまでも演技者の安全を図るために配慮したものであり、演奏演技の完成度を補完するものではない。入場、セッティングから退場までの安全を最優先に考えていただきたい。

安全策の為に待機する登録引率者及び搬入搬出補助員の待機場所については、通常のままとし、特例は認めない。

8. その他

- (1) 大会参加に要する経費は参加団体の負担とする。また、大会中止や会場での大会実施がなくなった場合、協会は係る経費について補償しない。
- (2) 納入された参加費は返却しない。
- (3) グランプリ旗は翌年度に返還する。
- (4) 高等学校の部・一般の部において2年連続グランプリを受賞した団体は翌年度の本大会において特別演奏演技（エキジビション）とする。
- (5) 特別演奏演技（エキジビション）は当該年度の実施要項に従って実施する。
但し、参加費は免除とする。
- (6) 特別演奏演技（エキジビション）参加にかかわる経費は参加団体の負担とする。
- (7) 本規定の主旨を変更することなく、実行委員会において字句の加除訂正を行うことができる。

審査要領

審査規定

1. 審査委員長・審査員・審判員

(1) 審査委員長

①審査委員長は1名とし、審査全般の最終確認を行うとともに審査審判を円滑に遂行する。

②審査委員長は審判長より報告を受け違反について最終判定を行う。

(2) 審査員

★小学生の部★

審査員は5名とする。

・全体的演奏演技の調和 5名

★中学生の部★

審査員は5名とする。

・全体的演奏演技の調和 2名

・全体的演奏技術と表現 2名

・全体的演技技術と表現 1名

★高等学校の部★

審査員は8名とする。

・音楽と視覚の調和 2名

・演奏の調和 1名

・演技の調和 1名

・管楽器の技術と表現 1名

・打楽器の技術と表現 1名

・動きの技術と表現 1名

・カラーガードの技術と表現 1名

★一般の部★

審査員は8名とする。

・音楽と視覚の調和 2名

・演奏の調和 1名

・演技の調和 1名

・管楽器の技術と表現 1名

・打楽器の技術と表現 1名

・動きの技術と表現 1名

・カラーガードの技術と表現 1名

(3) 審判員

①審判員は3名とし、1名を審判長とする。

②審判長は審査委員長の補佐をする。

③審判員は下記の内容を審判する。

ア. 人数・編成・時間・器物・事故 1名（審判長）

イ. フロアー・入退場・時間・器物・事故 2名

④違反が生じた場合は協議する。審判長は協議結果を審査委員長に報告する。

2. 成績・成績判定

(1) 成績

★小学生の部★

各審査員100点満点（小数点0.5まで）とする。
5名の審査員の中で最低点をカットした4名の合計点を4で割った値（小数第2位まで用いる）を各団体の得点とする。

- ・全体的演奏演技の調和 5名

成績点：上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

★中学生の部★

各審査員100点満点（小数点0.5まで）とする。
5名の審査員で下記内容を審査して平均点を算出する。

- ・全体的演奏演技の調和 2名
- ・全体的演奏技術と表現 2名
- ・全体的演技技術と表現 1名

成績点：上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

★高等学校の部★

各審査員の持ち点は $2 \times 100 \text{点} = 200 \text{点}$ 満点とする。なお、小数点以下は使用しない。
8名の審査員の配点（小数点なし）を足した点数の $1/10$ を算出する。
カラーガードがない団体は審査を行わず $1/9$ を算出

- ・音楽と視覚の調和 1名 200点
- ・音楽と視覚の調和 1名 200点
- ・演奏の調和 1名 $200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
- ・演技の調和 1名 $200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
- ・管楽器の技術と表現 1名 $200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
- ・打楽器の技術と表現 1名 $200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
- ・動きの技術と表現 1名 $200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
- ・カラーガードの技術と表現 1名 $200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$

成績点：上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

★一般の部★

各審査員の持ち点は $2 \times 100 \text{点} = 200 \text{点}$ 満点とする。なお、小数点以下は使用しない。
 8名の審査員の配点（小数点なし）を足した点数の $1/10$ を算出する。
 カラーガードがない団体は審査を行わず $1/9$ を算出

・音楽と視覚の調和	1名	200点
・音楽と視覚の調和	1名	200点
・演奏の調和	1名	$200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
・演技の調和	1名	$200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
・管楽器の技術と表現	1名	$200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
・打楽器の技術と表現	1名	$200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
・動きの技術と表現	1名	$200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$
・カラーガードの技術と表現	1名	$200 \text{点} \div 2 = 100 \text{点}$

成績点：上記得点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の成績点とする。

(2) 成績判定（順位の決定）

①編成ごとに成績点の高いものを上位とする。

3. 審査方法

審査は審査マニュアル2012に基づき実施する。

各部ごとに設定された審査項目（キャプション）と審査基準（クライテリア）に基づき審査を実施する。

- ・小学生の部、中学生の部においては、審査基準は達成の度合いに応じて3つの段階（BOX）がありそれぞれに点数範囲を設定する。
- ・高等学校の部、一般の部においては、審査項目は2つの副審査項目（サブキャプション）から構成され、それぞれにキーワードと審査基準を定める。各審査基準は達成の度合いに応じて5つの段階（BOX）がありそれぞれに点数範囲を設定する。

審査員は演奏演技中全てのキーワードについて、それらがどのように出来上がっているかを判断し、BOXにあてはめて点数を決定する。

審査員は自身のコメントが演奏演技のどの部分について行われているかを明確にする為、感じた事象に対して即座に肯定・否定を問わず記録する。

審査員自身の自己紹介などは演奏演技の開始前に又、演奏演技中に詳しく説明できなかったことや全体を総括するようなコメントは演奏演技終了後に記録する。したがってコメントデータは実際の演奏演技時間より長くなる。

小学生・中学生の部 各段階（BOX）の点数範囲	
段階（BOX）	点数範囲
A	85点以上100点満点
B	70点以上85点未満
C	70点未満

高等学校・一般の部 各段階（BOX）の点数範囲	
段階（BOX）	点数範囲
5	90点以上100点満点
4	80点以上90点未満
3	70点以上80点未満
2	60点以上70点未満
1	60点未満

4. 審査用紙

各審査用紙の1面には審査項目（キャプション）とそのキーワード及び、段階（BOX）の詳細を記載し、2面には審査基準（クライテリア）の詳細を記載。

全体的演奏演技の調和 審査基準(クライテリア)	
段階 A	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲やコンテ(動き方を図とコメントで示したもの)の意図を伝えようとする意欲は充分で、ミュージシャンシップが強く発揮されている。 ・メンバー(演奏・演技者)の演奏と動きが十分に調和されており、多くの場面で観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている。 ・テンポの維持や変化が適切になされている。 ・楽曲のスタイルや曲想を的確に反映した音楽表現がなされ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールが適切になされている。 ・ポジションワークや形、タイミングがそろえられたはっきりとした動きの表現がなされ、リカバリーも適切にされている。
段階 B	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップを感じ取ることができる。 ・メンバーの演奏と動きが概ね調和されており、観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている場面が見受けられる。 ・テンポの維持や変化が概ね正確に実施されている。 ・楽曲のスタイルや曲想を反映した音楽表現を行おうとする意欲が感じられ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールが概ねなされている。 ・ポジションワークや形、タイミングが概ねそろえられた動きの表現がなされ、リカバリーしようとする姿勢が感じられる。
段階 C	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップがあまり感じられない。 ・メンバーの演奏と動きが調和されている場面が少なく、観客の耳と目に相乗効果に訴えることができていない。 ・テンポの維持や変化が不正確である。 ・楽曲のスタイルや曲想を意識した音楽表現があまりなされておらず、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールも不十分である。 ・ポジションワークや形、タイミングが揃った動きの表現があまりなされておらず、リカバリーしようとする姿勢も不足している。

全体的演奏演技の調和 審査基準(クライテリア)	
段階 A	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲やコンテ(動き方を図とコメントで示したもの)の意図を伝えようとする意欲は充分で、ミュージシャンシップが強く発揮されている。 ・メンバー(演奏・演技者)の演奏と動きが十分に調和されており、多くの場面で観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている。 ・テンポの維持や変化が適切になされている。 ・楽曲のスタイルや曲想を的確に反映した音楽表現がなされ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールが適切になされている。 ・ポジションワークや形、タイミングがそろえられたはっきりとした動きの表現がなされ、リカバリーも適切にされている。
段階 B	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップを感じ取ることができる。 ・メンバーの演奏と動きが概ね調和されており、観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができている場面も見受けられる。 ・テンポの維持や変化が概ね正確に実施されている。 ・楽曲のスタイルや曲想を反映した音楽表現を行おうとする意欲が感じられ、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールが概ねなされている。 ・ポジションワークや形、タイミングが概ねそろえられた動きの表現がなされ、リカバリーしようとする姿勢が感じられる。
段階 C	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲やコンテの意図を伝えようとする意欲やミュージシャンシップがあまり感じられない。 ・メンバーの演奏と動きが調和されている場面が少なく、観客の耳と目に相乗効果的に訴えることができていない。 ・テンポの維持や変化が不正確である。 ・楽曲のスタイルや曲想を意識した音楽表現があまりなされておらず、場面ごとのバランスとブレンドや強弱のコントロールも不十分である。 ・ポジションワークや形、タイミングが揃った動きの表現があまりされておらず、リカバリーしようとする姿勢も不足している。

全体的演奏技術と表現 審査基準(クライテリア)	
段階 A	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法は統一されており、常に正確なブレスコントロールで、ダイナミックレンジや音域の高度な要求に対応している。 ・常に正確なチューニングと美しい音質で演奏し、乱れが感じられることはほとんどない。 ・常に安定したテンポと正確なタイミングで演奏されており、アーティキュレーションも曲想に合わせた奏法で統一されている。 ・曲想の解釈は細かい部分まで統一されており、表現の幅も十分である。また、常に楽曲の流れを考慮した表現がなされている。 ・全体を通し、常に曲想を理解した演奏が実施され、場面ごとのバランスやブレンドのコントロールがそろえられている。 ・楽曲のスタイルや特徴を十分に理解し、その個性を活かした表現をしようと試みており、ほとんどが成功している。 ・観客にアピールしようとする意志は十分に力強く、ほとんどの場面において意図した内容が伝わっている。
段階 B	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法はほぼ統一されているが、時折乱れ、不安定な響きや荒々しい音が聞かれる場面もある。 ・多くの場面でチューニングは正確にそろえられ、美しい音質で演奏しているが、時折乱れを感じることもある。 ・安定したテンポとタイミングで演奏されているが、時折アタックやリリースに乱れがあり、演奏の明瞭さやインパクトに欠ける場面がある。 ・場面ごとの曲想や音量に関する解釈はある程度統一されており、表現にある程度の幅を感じとれるが十分ではなく、楽曲の流れや表現の仕方が一致しない部分もある。 ・楽曲のスタイルや特徴を理解し、それを活かした表現を試みているが、時折不十分な場面がある。 ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢は感じとれるが、十分でない為に意図した内容が伝わらない場面がある。
段階 C	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法を統一しようとする努力は見受けられるが、ブレスコントロールの乱れが多く十分な響きが得られていない。 ・正確なチューニングと美しい音質を保とうとする努力は見受けられるが、乱れる場面が多い。 ・テンポとタイミングに関する解釈はそろっているようであるが、アタックやリリースに乱れが多く、演奏の明確さやインパクトに欠ける場面が多い ・場面ごとの曲想や音量に関して、統一された解釈があるようであるが、表現の幅が狭いために楽曲の流れと表現のしかたが一致しないことが多い。 ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が不足している。 ・観客を意識し、アピールしようとする努力が不足しているために意図した内容が伝わらない。

全体的演技技術と表現 審査基準(クライテリア)	
段階 A	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や動作、楽器や手具の持ち方等のスタイルは完全またはそれに近い状態で統一されており、良く洗練されている。 ・動作やタイミングは良くそろっており、ミスがあった場合のリカバリーも早く正確である。 ・フォーメーションの中で、列や間隔の乱れは非常に少なく、あったとしてもほとんど気にならない。 ・音楽に適した表現が良くできており、アピールしようとする姿勢も高い。
段階 B	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や動作、楽器や手具の持ち方等のスタイルを統一しようとする基準は認識できるが、不十分である。 ・動作やタイミングは概ねそろっているが、細部の調整が不十分な場面があり、ミスのリカバリーが遅くなることがある。 ・フォーメーションの中で、列や間隔をそろえようとする意識はあり、その合わせ方も理解しているようであるが、不十分な場面がある。 ・音楽を意識しているが、アピールしようとする姿勢が不足し、表現力に欠ける場面がある。
段階 C	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や動作、楽器や手具の持ち方等のスタイルを統一しようとする基準があいまいで、統一感が弱い。 ・動作やタイミングを合わせようとする努力は見受けられるが、不揃いな場面が多い。 ・ミスの自覚が乏しくリカバリーの機会を失う場面が多い。 ・フォーメーションの中で、列や間隔をそろえようとする努力は見受けられるが、不揃いな場面が多い。 ・音楽に関する理解度が不足し、アピールしようとする姿勢が少ないことが表現力の乏しさにつながっている。

音楽と視覚の調和 審査基準(クライテリア)

	作品の全体的調和	作品の解釈と表現
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において調整が行き届いており、違和感はほとんど無い。 ・作品全体の構成、処理は、バラエティーに富んでおり、部分的な処理にも多様性が感じられる。 ・色彩的にも豊かであり、かつ音楽との整合性もあり効果的である。 ・場面ごとに多くの、聴かせ所や見せ場があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。 ・作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している場面が多々ある。 ・ほとんどの場面で、解釈、処理が独創的かつ高度であり、それらが効果に密接に結びついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高く行われている。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者の集中力は常に深く継続しており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。 ・演奏・演技者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに表され、観客を度々魅了し感動させる。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップが常に強く発揮され、観客が感動する場面が度々ある。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において、多くの場面で調整されているが、違和感がある部分もある。 ・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。 ・色彩的にも豊かであり、音楽との整合性も感じられるが、違和感がある部分もある。 ・場面ごとに聴かせ所や見せ場があり、効果が強調されているが、効果が限定的である。 ・多くの場面で継続して平均以上の効果を発揮している部分があり、観客を引き付ける事もあるが、それぞれが繋がらない。 ・随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接効果に繋がらない場合も少しある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は充分で、観客とのコミュニケーションは高いが、伝わりきらない場合がある。 ・多くの場面で演奏・演技者の集中力は安定しているが、作品の意図が継続的に伝わらない場合もある。 ・演奏・演技者による感情表現の幅は広く、観客が心を動かされる場面も少なくないが、伝わらない場合もある。 ・多くの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において調整されている様に感じられるが、調整が不足している部分も少なくない。 ・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。 ・やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、十分な効果を出し得てはいない。 ・効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。 ・独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は得られているようだが、観客とのコミュニケーションは十分ではない。 ・ある程度、演奏・演技者の集中力を感じる部分もあるが、作品の意図が継続的に伝わらない。 ・演奏・演技者は作品が持つ感情表現も感じさせているが、観客の感情を操作するには至らない。 ・ある程度、演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において調整されている部分が不足しており、違和感も多く感じられる。 ・作品全体の構成、処理、色彩が平坦に感じられる。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分が不足しており、その多くが効果を発揮していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は不足しており、観客とのコミュニケーションも不十分である。 ・演奏・演技者の集中力が不足しており、作品の意図が伝わらない。 ・演奏・演技者による感情表現はあまり感じられない。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体が調整されている様には感じられず、雑然としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は未熟で、観客に対する意識も希薄である。

演奏の調和 審査基準(クライテリア)

	演奏の音楽性	演奏の質と技術
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。 フレージングは常に曲想的に的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。 バランスとブレンドのコントロールは常に適切に整えられている。 テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実に乱れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質は常に美しく整えられ、乱れが感じられることはほとんどない。 チューニングは正確で、ピッチが不ぞろいな部分はほとんどない。 イントネーションは良くそろえられており、違和感はほとんどない。 リズムコントロールはほとんどの場面で適切に行われ、自然な流れが保たれる。 タイミングに対する理解が的確で、乱れることはほとんどない。 フォーカスコントロールは常に適切で、音がバラバラの向きに飛ぶようなことはほとんどない。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現は多くの場面で適切になされているが、幅や深みに不足を感じる部分もある。 フレージング多くの場面で曲想を反映しているが、乱れを感じる部分もある。 ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。 テンポは維持され、その変化も多くの場面でコントロールされているが、乱れる場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質は多くの場面で美しく整えられているが、乱れが感じられることもある。 チューニングは概ね正確だが、ピッチがふぞろいに感じられる部分もある。 イントネーションは概ねそろっているが、違和感がある部分もある。 リズムコントロールは多くの場合適切だが、流れが損なわれる場面もある。 フォーカスコントロールは多くの場面で良好だが、音の向きがまとまりに欠け、やや拡散することがある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現はある程度なされているが、幅広さに欠け、単純に感じられる。 フレージングはある程度整えられているが、不足を感じる。 ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足を感じる。 バランスとブレンドはある程度整えられているが、不足を感じる。 テンポはある程度維持されているが、その変化をコントロールしきれずに乱れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質はある程度美しく整えられているが、不足を感じる。 チューニングはある程度そろっているが、ピッチがふぞろいな部分も多い。 イントネーションはある程度そろっているが、違和感がある部分も多い。 リズムコントロールはある程度なされているが、不自然さを感じる部分が多い。 フォーカスコントロールはある程度なされているが、音がバラバラと拡散する時間が長い。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な表現が不足しており、表現も単調である。 ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールされていない。 フレージングはあまり整えられておらず、ふぞろいである。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質を美しく保とうとする努力が不足している。 チューニングは大雑把であり、ピッチがそろわない場面も多い。 リズムやタイミング、フォーカスの理解が不足している。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的に何かを表現しようとしているようには感じられない。 フレージングやダイナミクスが設定されているようには聴こえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質を美しく保とうとしているようには聴こえない。 チューニングやリズムは不正確で、そろっていない。

演技の調和 審査基準(クライテリア)

	視覚要素(フォーム、ボディ、手具)	演技の質と技術
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 統一性は十分にまとまっており、乱れる部分はほとんどない。 視覚的構成に音楽が十分に反映しており、違和感を覚えることは少ない。 手具が効果的に使用され、かつ音楽を視覚的に表現する効果を十分に発揮しており、違和感があることは少ない 視覚的に豊かな表現がなされ、不足に感じる部分が少ない。 多様性に大変富んでおり、状態の変化も常に継続して行なわれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に高い動作の同一性を保ち、不揃いな部分は少ない。 ほとんどの場面で継続した技術の優秀性を発揮し、未熟さを感じる部分は少ない。 アーティキュレーションは十分整っており、不ぞろいな部分は少ない。 動作は常に鮮明で、はっきりとしている。 ほとんどの場合、リカバリーは素早く、的確になされる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 多くの場面で視覚的に統一され、まとまっているが、乱れる部分が時々気になる。 多くの場面で視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、違和感を覚える場面も少しある。 多くの場面で手具などが効果的に使用され、音楽を反映した表現が見られるが、違和感があることが少しある。 多くの部分で豊かな視覚的表現がなされるが、もの足りなさを覚える部分も少しある。 多様性は豊かではあるが、単調な部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作は概ね同一性を保っているが、不揃いな部分もある。 多くの場面で技術の優秀性を示すが、未熟さを感じる場面もある。 アーティキュレーションは概ねそろっているが、気になる部分もある。 動作は鮮明だが、はっきりしない部分もある。 多くの場合、リカバリーは迅速にされるが、時折時間が掛かる場合や不完全なことがある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ある程度、視覚的に統一されているが、まとまりのない部分も少なくない。 ある程度、視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、全体的に不足している。 ある程度、手具などの効果的な音楽表現があるが、もの足りない。 豊かな表現力を感じられる部分もあるが、全体的にもの足りない。 多様に変化する部分も感じられるが、単調な状態が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度、動作は揃っているが、不揃いな部分が多い。 高度な技術の習得を示す部分を感じられるが、全体的に未熟さが見える。 整ったアーティキュレーションを感じる部分もあるが、不十分な場面が多い。 鮮明な動作を感じる部分もあるが、はっきりしないことが多い。 リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 統一感が不足しており、まとまりも感じられない。 視覚的構成に音楽性を感じられる部分はあまりない。 手具などの表現に音楽性を感じる部分が少なく、その効果も感じられない。 表現力を感じることができず平坦である。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作が揃っている部分が少なく、それぞれの動きも十分ではない。 良好な技術を示すことが少なく、初歩的な範囲から脱しきれしていない。 アーティキュレーションがそろっておらず、不鮮明である。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 全てにおいて不ぞろいで、まとまりがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ内容の動作をしているように見える場面がない。 初歩的な動作の技術の習得が不足している。

管楽器の技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法や発音、リリースはほとんど完璧に統一されている。 常にリラックスした状態で安定したブレスサポートを駆使し、強弱・音域・音色変化の高度な要求にも明瞭かつ瞬時に対応している。 音質は豊かで繊細かつ力強い。 各楽器の特性に合った音色を理解しており、乱れることはほとんどない。 アンブシュアの安定により自然な響きが得られており、多彩な音色を持っている。 音程はほとんどの場面で完璧に維持され、確固たるイヤートレーニングを支えられた正確なピッチコントロールが美しいイントネーションとハーモニーを生み出している。 アーティキュレーションはほとんどの場面で統一され、バリエーションも豊富で、曲想に合わせて適切に使用されている。 テンポやタイミングに関する解釈はほとんどの場面で統一されており、一定のテンポ感を安心して感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法は多彩で幅広く、楽曲に関する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。また、フレージングは音楽的で良く統一されている。 ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも個々の音が飛び出すことはほとんどなく、豊かにブレンドしている。また、メロディーと伴奏のバランスも良い。 楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。また、音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法や発音、リリースは多くの場面で統一されているが、難しいフレーズを演奏する場合などにブレスサポートの乱れを感じることもある。 音質は多くの場面において良好で楽器本来の音色が得られているが、ダイナミクス・音域等の高度な要求がある時に炸裂音や音色の劣化がみられることがある。 音程は多くの場面で良く維持されているが、イントネーションやハーモニーに乱れを感じることもある。 アーティキュレーションは多くの場面で統一されているが、違和感がある部分もある。 テンポやタイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、乱れを感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 バランスは多くの場面で維持されるが、個々の音がパートにブレンドしないこともある。また、メロディーと伴奏のバランスも概ね良いが、メロディーが埋もれてしまうこともある。 楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ミュージシャンシップを感じる事ができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法や発音、リリースはある程度そろっているが、ブレスサポートが乱れるため不安定な響きや荒々しい音色がしばしば聞かれる。 音質を良好に維持しようとする姿勢は感じられるが、f(フォルテ)では荒々しくなり、p(ピアノ)では弱々しい響きになりやすく、音色にバラつきも生じる。 音程はある程度そろえられているが、ピッチコントロールが弱く、イントネーションやハーモニーがしばしば乱れる。 アーティキュレーションをそろえる意志は感じられるが、統一感が弱く、不明瞭な印象を受ける。 テンポやタイミングを合わせる意志は感じられるが、その方法やテクニックの問題から乱れを生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。また、フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足が目立つ。また、強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく、違和感がある。 バランスはある程度維持されているが、個々の音がパートにブレンドしないことが多い。また、バランスの問題からメロディーが不明瞭に感じられる場面が多い。 楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現は成功しないことが多い。 ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとはするが意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法に関する理解が不十分で、ムダな力みのため、必要なブレスサポートが得られていない。また、発音やリリースをそろえる意識も弱い。 音質を良好に維持しようとする意志が弱く、ブレスやアンブシュアの不安定さによる個々の音色のバラつきも目立つ。 チューニング自体が不完全であり、耳を使って一定の音程を保つトレーニングが不足している。 アーティキュレーションに関する理解が不十分で、テンポやタイミングをそろえる意識やトレーニングも不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。また、演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに関する認識もあまり感じられない。 ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。また、強弱の設定も不明瞭である。 バランスを維持しようとする意識が希薄なため、メロディーラインが不明瞭である。また、個々の音の飛び出しが著しく目立ち、パートにブレンドしない。 楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。また、奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法に統一性が認められず、楽器本来の音色が聞かれない。 ブレストレーニングやアンブシュアの改善が必要である。 チューニングができておらず、音程を合わせようとしているようには感じられない。 テンポやタイミングに関する個々の理解が認められず、演奏がまちまちでそろわない。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ダイナミクスやバランスに関する認識があるようには感じられない。 楽曲に関する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。

打楽器の技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 奏法はほぼ完全に統一されており楽曲に対する配慮も適切で個人差を見つけないのはむしろかしい。また個々の音色、音量に差がほとんどなく、全体的なアーティキュレーションの明確性に大きく貢献している。 楽器の特性を引き出す音作りがほぼ完璧になされており、音域が効果的に設定されている。 同じ楽器間でのチューニングはほとんど完璧に調整されており、楽曲に対する配慮も適切で違和感な場面はほとんどない。 楽譜の解釈はほぼ完全に統一され、アーティキュレーションのミスはほとんど感じられない。 テンポ、タイミングに関する解釈が統一されておりこれらのミスはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法は多彩で幅広く、楽曲に対する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。フレージングは音楽的で良く統一されている。 ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも乱れることはほとんどない。また、パートやセクションとしての豊かなサウンドを形成している。 楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 奏法は多くの場面で統一され、楽曲に対する配慮もなされており個人差はほとんど見受けられない。また個々の音色、音量等も良くそろっているが、統一性の不完全さから、時折乱れを感じることもある。 楽器の特性を引き出す音作りがある程度なされており、音域は概ねバランス良く設定されている。 楽譜の解釈は多くの場面で統一されているが、アーティキュレーションのミスが時折ある。 同じ楽器間でのチューニングは概ねそろっているが、楽曲に対し適切でない場合が時折、見受けられる。 テンポ、タイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、時折乱れを感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 バランスは多くの場面でうまく維持されるが、やや乱れてパートやセクションでうまくそろわないこともある。 楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ミュージシャンシップを感じる事ができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 奏法はある程度、統一されているが、グリップ、フォーム、スティックハイト等の調整に不足を感じる。 楽器の特性をある程度引き出しているが、若干の違和感がある。 楽譜の解釈はある程度統一されているが、アーティキュレーションにミスが生じる。 同じ楽器内でのチューニングはある程度揃えられているが十分ではない。 テンポ、タイミングに関する解釈はある程度統一されているが、不正確な部分が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく違和感がある。 バランスはある程度維持されているが乱れも目立ち、パートやセクションでそろわないことが多い。 楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現に成功しないことが多い。 ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとはするが意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 奏法に関する基準が不十分で、グリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いなため、個々の音色、音量に違いが出てしまっている。 使用している楽器の特性を引き出そうとする努力が不足しており、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色に不自然さを感じる。 楽譜の内容に関する解釈が不十分で、ミスが多いため明瞭さが不十分である。 同じ楽器内でのチューニングにバラツキが感じられる。 テンポ、タイミングに関する解釈が不十分で、正確さに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに対する認識もあまり感じられない。 ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。強弱の設定も不明瞭である。 バランス設定が的確に決められていないため、各楽器のサウンドにバラツキを感じる。 楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 奏法に関して基準があるように見受けられない。またグリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いで、統一感が感じられない。 使用している楽器の特性が全く引き出されていない。また、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色が引き出せていない。 楽譜の内容に関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さがない。 同じ楽器内でのチューニングが全くそろっていない テンポ、タイミング等の解釈に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ダイナミクスやバランスに対する認識があるようには感じられない。 楽曲に対する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。

動きの技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	達成度と表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルは、ほとんど統一されており洗練されている。 動作、タイミングが良くそろっている。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方がほとんど統一されており洗練されている。 ミスのリカバリーが早く正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔の乱れがほとんどなく、あったとしても気にならない程度である。 ボディーワークの表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 手具の表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 ショーマンシップが高く、音楽に最も適した表現が良くできており、アピール度も高く感銘できる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルは多くの場面で統一されており演奏演技するのに適した動作になっているがばらつきが生じる部分もある。 動作、タイミングは多くの場面でそろっているが、細かいところでばらつきが生じる部分もある。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方は多くの場面で統一されており、かつ演奏演技に適しているが、ばらつきが生じる部分もある。 ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔の乱れがあまりなく整理されているが、クリーニング不足の部分もある。 ボディーワークの表現は多くの場面で音楽に適しているが、時折乱れる事がある。 手具の表現は多くの場面で音楽に適しているが、時折乱れる事がある。 多くの場面で音楽に適した表現ができておりアピール度も高いが、違和感を感じる部分もある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルを統一しようとしている基準は認識でき、演奏演技するのに、ある程度適した動作になっているがふぞろいな部分が見受けられる。 動作、タイミングは理解しているようだが、ふぞろいな部分が見受けられる。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方の基準は認識でき、演奏演技には、ある程度適しているがふぞろいな部分が見受けられる。 ミスのリカバリーが遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔をそろえようとする意識は見受けられるが、クリーニング不足である。 ボディーワークの表現はある程度音楽に適しているが、違和感の部分も見受けられる。 手具の表現は、ある程度音楽に適しているが、違和感の部分も見受けられる。 音楽をある程度意識しているが、アピール度が十分でないため表現不足を感じる。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルにおいて統一しようとしている基準は見受けられるが、不揃いな部分が目立ち統一感が弱い。また演奏演技に適した動作になりきれていない。 動作、タイミングを合わせようとする努力は時折見受けられるが不十分である。 楽器、手具等の持ち方、操作を統一しようとする基準は見受けられるが不揃いがかかなり目立つ。 ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔をそろえようとする意識が弱いためきれいにそろわない。 ボディーワークの表現は、不揃いな部分が目立ち、表現力に欠ける。 手具の表現は、ふぞろいが目立ち、表現力に欠ける。 音楽に合わせて表現しようとする意識やアピール度が弱い。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルが全く統一されていない。また、演奏演技するのに適した動作になっていない。 動作、タイミングが全くバラバラである。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方が統一されておらず演奏演技するのに適していない。 ミスしている自覚がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔を揃えようとする意識があるように見受けられない。 音楽に合わせて表現しようとする意識があるように見受けられない。

カラーガードの技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	達成度と表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイルは十分に統一されている。 ・身体や動作、手具の扱いの理解の度合いが高く、技術的に大変優れている。 ・身体や手具のポジションは統一されており、ミスはほとんどない。 ・動作や手具操作のタイミングは一致しており、ミスはほとんどない。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、ほとんどの場合において大変優れた表現がなされている ・ミスのリカバリーが早く正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法はほとんどの場面で独創的で音楽が的確に理解されている。 ・身体の形や動き、手具の操作は、ほとんどの場面でかみ合っており、音楽的な違和感はほとんどない。 ・ショーを構成する音楽に対して、ほとんどの場面で適切な反映が行なわれており、不適切だと感じる場面はほとんどない。 ・視覚的に表現する様々な要素は豊富で多様性に富んでいる。 ・ほとんどの場面において表現は適切で違和感はほとんどない。 ・表現方法の完成度は非常に高く、ほとんどの場面でショー全体に良く貢献している。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイルは統一されているが、まれに徹底されてない部分がある。 ・身体や動作、手具の扱いの理解は十分で、技術的なレベルは高い。 ・身体や手具のポジションはそろっており、ミスは少ない。 ・動作や手具操作のタイミングはそろっており、ミスは少ない。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、多くの場合で優れた表現がなされている。 ・ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法は多くの場面で、独創的で音楽に対する理解も全体的にはなされているが、まれに違和感がある。 ・身体の形や動き、手具の操作は、多くの場面でかみ合っているが、まれに違和感がある。 ・ショーを構成する音楽に対して、多くの場面で適切に反映されているが、まれに違和感がある。 ・視覚的に表現する様々な要素が複数あり多様である。 ・多くの場面で表現は適切であるがまれに違和感がある。 ・表現方法の完成度は高く多くの場面でショーに貢献しているがまれに違和感がある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイルはほぼ統一されているが、不十分な時が多い。 ・身体や動作、手具の扱いを理解し演技しているが、十分でない場面がある。 ・身体や手具のポジションはそろっているが、ミスが多い。 ・動作や手具操作のタイミングはそろっているが、ミスが多い。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングがされているが、十分でない場面が多い。 ・ミスのリカバリーが遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法にある程度、一貫性を感じる事は多く、音楽を理解されている部分も多いが、長続きしない。 ・身体の形や動き、手具の操作は、ある程度かみ合っており、音楽とも合っているが、不適切に感じる部分が多い。 ・ショーを構成する音楽に対して、ある程度適切に反映されているが、時折不適切に感じる。 ・視覚的に表現する様々な要素は限られており、あまり多様ではない。 ・ある程度、表現方法は適切であるが不適切に感じる場面もある。 ・表現方法の完成度はある程度高く、ショー全体への貢献もある程度見受けられる場面もあるが不足を感じる。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> ・統一されたスタイルがあるが、不徹底である。 ・身体や動作のことを若干理解し演技しているようであるが、理解の度合いは浅い ・身体や手具のポジションが決められているようであるが、不徹底である。 ・動作や手具操作のタイミングがあまりそろっていない。 ・ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法に時折、脈絡を感じる部分があるが不足している。音楽を理解している部分が少ない。 ・身体の形や動き、手具の操作が、あまり音楽とかみあっていない。 ・視覚的に表現する様々な要素が不足している。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーガードとしての統一されたスタイルが存在するようには見受けられない。 ・身体や動作のことを理解し演技しているようには感じられない。 ・身体や手具の持ち方、操作の仕方が全く統一されておらず演技をするのに適していない。 ・動作や手具操作の、タイミングが全くバラバラである。 ・ミスしている自覚がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法に一貫性がなく、音楽を理解しているとは感じられない。 ・身体の形や動き、手具の操作が、かみ合っていない。 ・視覚的に表現する様々な要素があるように感じられない。

音楽と視覚の調和 審査基準(クライテリア)

	作品の全体的調和	作品の解釈と表現
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において調整が行き届いており、違和感はほとんど無い。 ・作品全体の構成、処理は、バラエティーに富んでおり、部分的な処理にも多様性が感じられる。 ・色彩的にも豊かであり、かつ音楽との整合性もあり効果的である。 ・場面ごとに多くの、聴かせ所や見せ場があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。 ・作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している場面が多々ある。 ・ほとんどの場面で、解釈、処理が独創的かつ高度であり、それらが効果に密接に結びついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高く行われている。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者の集中力は常に深く継続しており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。 ・演奏・演技者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに表され、観客を度々魅了し感動させる。 ・ほとんどの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップが常に強く発揮され、観客が感動する場面が度々ある。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において、多くの場面で調整されているが、違和感がある部分もある。 ・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。 ・色彩的にも豊かであり、音楽との整合性も感じられるが、違和感がある部分もある。 ・場面ごとに聴かせ所や見せ場があり、効果が強調されているが、効果が限定的である。 ・多くの場面で継続して平均以上の効果を発揮している部分があり、観客を引き付ける事もあるが、それぞれが繋がらない。 ・随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接効果に繋がらない場合も少しある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は充分で、観客とのコミュニケーションは高いが、伝わりきらない場合がある。 ・多くの場面で演奏・演技者の集中力は安定しているが、作品の意図が継続的に伝わらない場合もある。 ・演奏・演技者による感情表現の幅は広く、観客が心を動かされる場面も少なくないが、伝わらない場合もある。 ・多くの場面で演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において調整されている様に感じられるが、調整が不足している部分も少なくない。 ・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。 ・やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、充分な効果を出し得てはいない。 ・効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。 ・独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は得られているようだが、観客とのコミュニケーションは十分ではない。 ・ある程度、演奏・演技者の集中力を感じる部分もあるが、作品の意図が継続的に伝わらない。 ・演奏・演技者は作品が持つ感情表現も感じさせているが、観客の感情を操作するには至らない。 ・ある程度、演奏・演技者のミュージシャンシップやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体において調整されている部分が不足しており、違和感も多く感じられる。 ・作品全体の構成、処理、色彩が平坦に感じられる。 ・聴かせ所や見せ場と感じられる部分が不足しており、その多くが効果を発揮していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は不足しており、観客とのコミュニケーションも不十分である。 ・演奏・演技者の集中力が不足しており、作品の意図が伝わらない。 ・演奏・演技者による感情表現はあまり感じられない。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品全体が調整されている様には感じられず、雑然としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏・演技者による作品の理解は未熟で、観客に対する意識も希薄である。

演奏の調和 審査基準(クライテリア)

	演奏の音楽性	演奏の質と技術
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。 フレージングは常に曲想的に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。 バランスとブレンドのコントロールは常に適切に整えられている。 テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実に乱れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質は常に美しく整えられ、乱れが感じられることはほとんどない。 チューニングは正確で、ピッチが不ぞろいな部分はほとんどない。 イントネーションは良くそろえられており、違和感はほとんどない。 リズムコントロールはほとんどの場面で適切に行われ、自然な流れが保たれる。 タイミングに対する理解が的確で、乱れることはほとんどない。 フォーカスコントロールは常に適切で、音がバラバラの向きに飛ぶようなことはほとんどない。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現は多くの場面で適切になされているが、幅や深みに不足を感じる部分もある。 フレージング多くの場面で曲想を反映しているが、乱れを感じる部分もある。 ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。 テンポは維持され、その変化も多くの場面でコントロールされているが、乱れる場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質は多くの場面で美しく整えられているが、乱れが感じられることもある。 チューニングは概ね正確だが、ピッチがふぞろいに感じられる部分もある。 イントネーションは概ねそろっているが、違和感がある部分もある。 リズムコントロールは多くの場合適切だが、流れが損なわれる場面もある。 フォーカスコントロールは多くの場面で良好だが、音の向きがまとまりに欠け、やや拡散することがある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現はある程度なされているが、幅広さに欠け、単純に感じられる。 フレージングはある程度整えられているが、不足を感じる。 ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足を感じる。 バランスとブレンドはある程度整えられているが、不足を感じる。 テンポはある程度維持されているが、その変化をコントロールしきれずに乱れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質はある程度美しく整えられているが、不足を感じる。 チューニングはある程度そろっているが、ピッチがふぞろいな部分も多い。 イントネーションはある程度そろっているが、違和感がある部分も多い。 リズムコントロールはある程度なされているが、不自然さを感じる部分が多い。 フォーカスコントロールはある程度なされているが、音がバラバラと拡散する時間が長い。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な表現が不足しており、表現も単調である。 ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールされていない。 フレージングはあまり整えられておらず、ふぞろいである。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質を美しく保とうとする努力が不足している。 チューニングは大雑把であり、ピッチがそろわない場面も多い。 リズムやタイミング、フォーカスの理解が不足している。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的に何かを表現しようとしているようには感じられない。 フレージングやダイナミクスが設定されているようには聴こえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音質を美しく保とうとしているようには聴こえない。 チューニングやリズムは不正確で、そろっていない。

演技の調和 審査基準(クライテリア)

	視覚要素(フォーム、ボディ、手具)	演技の質と技術
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 統一性は十分で常にまとまっており、乱れる部分はほとんどない。 視覚的構成に音楽が十分に反映しており、違和感を覚えることは少ない。 手具が効果的に使用され、かつ音楽を視覚的に表現する効果を十分に発揮しており、違和感があることは少ない 視覚的に豊かな表現がなされ、不足に感じる部分が少ない。 多様性に大変富んでおり、状態の変化も常に継続して行なわれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に高い動作の同一性を保ち、不揃いな部分は少ない。 ほとんどの場面で継続した技術の優秀性を発揮し、未熟さを感じる部分は少ない。 アーティキュレーションは十分整っており、不ぞろいな部分は少ない。 動作は常に鮮明で、はっきりとしている。 ほとんどの場合、リカバリーは素早く、的確になされる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 多くの場面で視覚的に統一され、まとまっているが、乱れる部分が時々気になる。 多くの場面で視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、違和感を覚える場面も少しある。 多くの場面で手具などが効果的に使用され、音楽を反映した表現が見られるが、違和感があることが少しある。 多くの部分で豊かな視覚的表現がなされるが、もの足りなさを覚える部分も少しある。 多様性は豊かではあるが、単調な部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作は概ね同一性を保っているが、不揃いな部分もある。 多くの場面で技術の優秀性を示すが、未熟さを感じる場面もある。 アーティキュレーションは概ねそろっているが、気になる部分もある。 動作は鮮明だが、はっきりしない部分もある。 多くの場合、リカバリーは迅速にされるが、時折時間が掛かる場合や不完全なことがある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ある程度、視覚的に統一されているが、まとまりのない部分も少なくない。 ある程度、視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、全体的に不足している。 ある程度、手具などの効果的な音楽表現があるが、もの足りない。 豊かな表現力を感じられる部分もあるが、全体的なもの足りない。 多様に化する部分も感じられるが、単調な状態が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度、動作は揃っているが、不揃いな部分が多い。 高度な技術の習得を示す部分を感じられるが、全体的に未熟さが見える。 整ったアーティキュレーションを感じる部分もあるが、不十分な場面が多い。 鮮明な動作を感じる部分もあるが、はっきりしないことが多い。 リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 統一感が不足しており、まとまりも感じられない。 視覚的構成に音楽性を感じられる部分はあまりない。 手具などの表現に音楽性を感じる部分が少なく、その効果も感じられない。 表現力を感じることができず平坦である。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作が揃っている部分が少なく、それぞれの動きも十分ではない。 良好な技術を示すことが少なく、初歩的な範囲から脱しきれていない。 アーティキュレーションがそろっておらず、不鮮明である。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 全てにおいて不ぞろいで、まとまりがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ内容の動作をしているように見える場面がない。 初歩的な動作の技術の習得が不足している。

管楽器の技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法や発音、リリースはほとんど完璧に統一されている。 常にリラックスした状態で安定したブレスサポートを駆使し、強弱・音域・音色変化の高度な要求にも明瞭かつ瞬時に対応している。 音質は豊かで繊細かつ力強い。 各楽器の特性に合った音色を理解しており、乱れることはほとんどない。 アンブシュアの安定により自然な響きが得られており、多彩な音色を持っている。 音程はほとんどの場面で完璧に維持され、確固たるイヤートレーニングに支えられた正確なピッチコントロールが美しいイントネーションとハーモニーを生み出している。 アーティキュレーションはほとんどの場面で統一され、バリエーションも豊富で、曲想に合わせて適切に使用されている。 テンポやタイミングに関する解釈はほとんどの場面で統一されており、一定のテンポ感を安心して感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法は多彩で幅広く、楽曲に関する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。また、フレージングは音楽的で良く統一されている。 ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも個々の音が飛び出すことはほとんどなく、豊かにブレンドしている。また、メロディーと伴奏のバランスも良い。 楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。また、音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法や発音、リリースは多くの場面で統一されているが、難しいフレーズを演奏する場合などにブレスサポートの乱れを感じることもある。 音質は多くの場面において良好で楽器本来の音色が得られているが、ダイナミクス・音域等の高度な要求がある時に炸裂音や音色の劣化がみられることがある。 音程は多くの場面で良く維持されているが、イントネーションやハーモニーに乱れを感じることもある。 アーティキュレーションは多くの場面で統一されているが、違和感がある部分もある。 テンポやタイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、乱れを感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 バランスは多くの場面で維持されるが、個々の音がパートにブレンドしないこともある。また、メロディーと伴奏のバランスも概ね良いが、メロディーが埋もれてしまうこともある。 楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ミュージシャンシップを感じることができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法や発音、リリースはある程度そろっているが、ブレスサポートが乱れるため不安定な響きや荒々しい音色がしばしば聞かれる。 音質を良好に維持しようとする姿勢は感じられるが、f(フォルテ)では荒々しくなり、p(ピアノ)では弱々しい響きになりやすく、音色にバラつきも生じる。 音程はある程度そろえられているが、ピッチコントロールが弱く、イントネーションやハーモニーがしばしば乱れる。 アーティキュレーションをそろえる意志は感じられるが、統一感が弱く、不明瞭な印象を受ける。 テンポやタイミングを合わせる意志は感じられるが、その方法やテクニックの問題から乱れを生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。また、フレージングは音楽的にもやや不十分に乱れることが多い。 ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。また、強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく、違和感がある。 バランスはある程度維持されているが、個々の音がパートにブレンドしないことが多い。また、バランスの問題からメロディーが不明瞭に感じられる場面が多い。 楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現は成功しないことが多い。 ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとするが意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法に関する理解が不十分で、ムダな力みのため、必要なブレスサポートが得られていない。また、発音やリリースをそろえる意識も弱い。 音質を良好に維持しようとする意志が弱く、ブレスやアンブシュアの不安定さによる個々の音色のバラつきも目立つ。 チューニング自体が不完全であり、耳を使って一定の音程を保つトレーニングが不足している。 アーティキュレーションに関する理解が不十分で、テンポやタイミングをそろえる意識やトレーニングも不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。また、演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに関する認識もあまり感じられない。 ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。また、強弱の設定も不明瞭である。 バランスを維持しようとする意識が希薄なため、メロディーラインが不明瞭である。また、個々の音の飛び出しが著しく目立ち、パートにブレンドしない。 楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。また、奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸法に統一性が認められず、楽器本来の音色が聞かれない。 プレストレーニングやアンブシュアの改善が必要である。 チューニングができておらず、音程を合わせようとしているようには感じられない。 テンポやタイミングに関する個々の理解が認められず、演奏がまちまちでそろわない。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ダイナミクスやバランスに関する認識があるようには感じられない。 楽曲に関する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。

打楽器の技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法はほぼ完全に統一されており楽曲に対する配慮も適切で個人差を見つけるのはむずかしい。また個々の音色、音量に差がほとんどなく、全体的なアーティキュレーションの明確性に大きく貢献している。 ・楽器の特性を引き出す音作りがほぼ完璧になされており、音域が効果的に設定されている。 ・同じ楽器間でのチューニングはほとんど完璧に調整されており、楽曲に対する配慮も適切で違和感な場面はほとんどない。 ・楽譜の解釈はほぼ完全に統一され、アーティキュレーションのミスはほとんど感じられない。 ・テンポ、タイミングに関する解釈が統一されておりこれらのミスはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法は多彩で幅広く、楽曲に対する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。フレージングは音楽的で良く統一されている。 ・ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。 ・バランスは常に維持され、ppやffを演奏する場合でも乱れることはほとんどない。また、パートやセクションとしての豊かなサウンドを形成している。 ・楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。 ・ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法は多くの場面で統一され、楽曲に対する配慮もなされており個人差はほとんど見受けられない。また個々の音色、音量等も良く揃っているが、統一性の不完全さから、時折乱れを感じることもある。 ・楽器の特性を引き出す音作りがある程度なされており、音域は概ねバランス良く設定されている。 ・楽譜の解釈は多くの場面で統一されているが、アーティキュレーションのミスが時折ある。 ・同じ楽器間でのチューニングは概ねそろっているが、楽曲に対し適切でない場合が時折、見受けられる。 ・テンポ、タイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、時折乱れを感じることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。 ・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。 ・バランスは多くの場面でうまく維持されるが、やや乱れてパートやセクションでそろわないこともある。 ・楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。 ・ミュージシャンシップを感じることができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法はある程度、統一されているが、グリップ、フォーム、スティックハイト等の調整に不足を感じる。 ・楽器の特性をある程度引き出しているが、若干の違和感がある。 ・楽譜の解釈はある程度統一されているが、アーティキュレーションにミスが生じる。 ・同じ楽器内でのチューニングはある程度そろえられているが十分ではない。 ・テンポ、タイミングに関する解釈はある程度統一されているが、不正確な部分が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。 ・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足が目立つ。強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく違和感がある。 ・バランスはある程度維持されているが乱れが目立ち、パートやセクションでそろわないことが多い。 ・楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現に成功しないことが多い。 ・ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとする意図する内容が伝わり切らない。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法に関する基準が不十分で、グリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いなため、個々の音色、音量に違いが出てしまっている。 ・使用している楽器の特性を引き出そうとする努力が不足しており、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色に不自然さを感じる。 ・楽譜の内容に関する解釈が不十分で、ミスが多いため明瞭さが不十分である。 ・同じ楽器内でのチューニングにバラツキが感じられる。 ・テンポ、タイミングに関する解釈が不十分で、正確さに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに対する認識もあまり感じられない。 ・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。強弱の設定も不明瞭である。 ・バランス設定が的確に決められていないため、各楽器のサウンドにバラツキを感じる。 ・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。奏者の意図も観客にうまく伝わらない。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法に関して基準があるように見受けられない。またグリップ、フォーム、スティックハイト等がふぞろいで、統一感が感じられない。 ・使用している楽器の特性が全く引き出されていない。また、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色が引き出せていない。 ・楽譜の内容に関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さがない。 ・同じ楽器内でのチューニングが全くそろっていない ・テンポ、タイミング等の解釈に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。 ・ダイナミクスやバランスに対する認識があるようには感じられない。 ・楽曲に対する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。

動きの技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	達成度と表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルは、ほとんど統一されており洗練されている。 動作、タイミングが良くそろっている。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方がほとんど統一されており洗練されている。 ミスのリカバリーが早く正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔の乱れがほとんどなく、あったとしても気にならない程度である。 ボディーワークの表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 手具の表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。 ショーマンシップが高く、音楽に最も適した表現が良くできており、アピール度も高く感銘できる。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルは多くの場面で統一されており演奏演技するのに適した動作になっているがばらつきが生じる部分もある。 動作、タイミングは多くの場面でそろっているが、細かいところでばらつきが生じる部分もある。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方は多くの場面で統一されており、かつ演奏演技に適しているが、ばらつきが生じる部分もある。 ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔の乱れがあまりなく整理されているが、クリーニング不足の部分もある。 ボディーワークの表現は多くの場面で音楽に適しているが、時折乱れる事がある。 手具の表現は多くの場面で音楽に適しているが、時折乱れる事がある。 多くの場面で音楽に適した表現ができておりアピール度も高いが、違和感を感じる部分もある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルを統一しようとしている基準は認識でき、演奏演技するのに、ある程度適した動作になっているがふぞろいな部分が見受けられる。 動作、タイミングは理解しているようだが、ふぞろいな部分が見受けられる。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方の基準は認識でき、演奏演技には、ある程度適しているがふぞろいな部分が見受けられる。 ミスのリカバリーが遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔をそろえようとする意識は見受けられるが、クリーニング不足である。 ボディーワークの表現はある程度音楽に適しているが、違和感な部分も見受けられる。 手具の表現は、ある程度音楽に適しているが、違和感な部分も見受けられる。 音楽をある程度意識しているが、アピール度が十分でないため表現不足を感じる。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルにおいて統一しようとしている基準は見受けられるが、不揃いな部分が目立ち統一感が弱い。また演奏演技に適した動作になりきれていない。 動作、タイミングを合わせようとする努力は時折見受けられるが不十分である。 楽器、手具等の持ち方、操作を統一しようとする基準は見受けられるが不揃い目立つ。 ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔をそろえようとする意識が弱いためきれいにそろわない。 ボディーワークの表現は、不揃いな部分が目立ち、表現力に欠ける。 手具の表現は、ふぞろいが目立ち、表現力に欠ける。 音楽に合わせて表現しようとする意識やアピール度が弱い。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、動作等のスタイルが全く統一されていない。また、演奏演技するのに適した動作になっていない。 動作、タイミングが全くバラバラである。 楽器、手具等の持ち方、操作の仕方が統一されておらず演奏演技するのに適していない。 ミスしている自覚がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 列や間隔を揃えようとする意識があるように見受けられない。 音楽に合わせて表現しようとする意識があるように見受けられない。

カラーガードの技術と表現 審査基準(クライテリア)

	基礎技術力	達成度と表現力
段階 5	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイルは十分に統一されている。 ・身体や動作、手具の扱いの理解の度合いが高く、技術的に大変優れている。 ・身体や手具のポジションは統一されており、ミスはほとんどない。 ・動作や手具操作のタイミングは一致しており、ミスはほとんどない。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、ほとんどの場合において大変優れた表現がなされている ・ミスのリカバリーが早く正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法はほとんどの場面で独創的で音楽が的確に理解されている。 ・身体の形や動き、手具の操作は、ほとんどの場面でかみ合っており、音楽的な違和感はほとんどない。 ・ショーを構成する音楽に対して、ほとんどの場面で適切な反映が行なわれており、不適切だと感じる場面はほとんどない。 ・視覚的に表現する様々な要素は豊富で多様性に富んでいる。 ・ほとんどの場面において表現は適切で違和感はほとんどない。 ・表現方法の完成度は非常に高く、ほとんどの場面でショー全体に良く貢献している。
段階 4	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイルは統一されているが、まれに徹底されてない部分がある。 ・身体や動作、手具の扱いの理解は十分で、技術的なレベルは高い。 ・身体や手具のポジションはそろっており、ミスは少ない。 ・動作や手具操作のタイミングはそろっており、ミスは少ない。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、多くの場合で優れた表現がなされている。 ・ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法は多くの場面で、独創的で音楽に対する理解も全体的にはなされているが、まれに違和感がある。 ・身体の形や動き、手具の操作は、多くの場面でかみ合っているが、まれに違和感がある。 ・ショーを構成する音楽に対して、多くの場面で適切に反映されているが、まれに違和感がある。 ・視覚的に表現する様々な要素が複数あり多様である。 ・多くの場面で表現は適切であるがまれに違和感がある。 ・表現方法の完成度は高く多くの場面でショーに貢献しているがまれに違和感がある。
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイルはほぼ統一されているが、不十分な時が多い。 ・身体や動作、手具の扱いを理解し演技しているが、十分でない場面がある。 ・身体や手具のポジションはそろっているが、ミスが多い。 ・動作や手具操作のタイミングはそろっているが、ミスが多い。 ・ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングがされているが、十分でない場面が多い。 ・ミスのリカバリーが遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法にある程度、一貫性を感じる事は多く、音楽を理解されている部分も多いが、長続きしない。 ・身体の形や動き、手具の操作は、ある程度かみ合っており、音楽とも合っているが、不適切に感じる部分が多い。 ・ショーを構成する音楽に対して、ある程度適切に反映されているが、時折不適切に感じる。 ・視覚的に表現する様々な要素は限られており、あまり多様ではない。 ・ある程度、表現方法は適切であるが不適切に感じる場面もある。 ・表現方法の完成度はある程度高く、ショー全体への貢献もある程度見受けられる場面もあるが不足を感じる。
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> ・統一されたスタイルがあるが、不徹底である。 ・身体や動作のことを若干理解し演技しているようであるが、理解の度合いは浅い ・身体や手具のポジションが決められているようであるが、不徹底である。 ・動作や手具操作のタイミングがあまりそろっていない。 ・ミスを自覚しているがリカバリーしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法に時折、脈絡を感じる部分があるが不足している。音楽を理解している部分が少ない。 ・身体の形や動き、手具の操作が、あまり音楽とかみあっていない。 ・視覚的に表現する様々な要素が不足している。
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーガードとしての統一されたスタイルが存在するようには見受けられない。 ・身体や動作のことを理解し演技しているようには感じられない。 ・身体や手具の持ち方、操作の仕方が全く統一されておらず演技をするのに適していない。 ・動作や手具操作の、タイミングが全くバラバラである。 ・ミスしている自覚がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法に一貫性がなく、音楽を理解しているとは感じられない。 ・身体の形や動き、手具の操作が、かみ合っていない。 ・視覚的に表現する様々な要素があるように感じられない。

表彰規定

1. 表彰

★小学生の部★

- ①全出場団体に、金賞・銀賞・銅賞のいずれかを授与する。
- ②編成毎に、金賞：銀賞：銅賞の割合を1：1：1の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が70点以上の場合は銀賞とする。

★中学生の部★

- ①全出場団体に、金賞・銀賞・銅賞のいずれかを授与する。
- ②編成毎に、金賞：銀賞：銅賞の割合を1：1：1の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が70点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。

★高等学校の部★

- ①全出場団体に金賞・銀賞・銅賞を授与する。
- ②編成毎に、金賞：銀賞：銅賞の割合を1：1：1の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が90点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。
- ④成績点の最も高い団体をグランプリとし、賞状とグランプリ旗を授与する。
- ⑤グランプリ団体及び編成別最優秀団体には特別賞を授与することができる。

★一般の部★

- ①全出場団体に金賞・銀賞・銅賞を授与する。
- ②編成毎に、金賞：銀賞：銅賞の割合を1：1：1の相対評価とし、銅賞該当団体の内、成績点が90点以上の場合は銀賞とする。
- ③編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。
- ④成績点の最も高い団体をグランプリとし、賞状とグランプリ旗を授与する。
- ⑤グランプリ団体及び編成別最優秀団体には特別賞を授与することができる。
- ⑥金賞(受賞)団体が翌年度の本大会に出場をする場合、出演順はシード制とする。編成別に出演順を後半とし、成績下位から順番に演奏演技を行う。シード団体が翌年度の大会において編成が変わった場合は変わった編成の後半（前年度成績下位順）にシードするものとする。なお、特別演奏演技団体（2年連続グランプリ受賞団体）が翌年度の本大会に出場する場合、該当編成の最後に演奏演技をする。

2. 同点処理

(1) 編成別最優秀賞決定における同点処理

編成別最上位の成績点に同点が生じた場合は、以下の処理を行う。

- ① 当該団体間の編成別席次合計が最小の団体を編成別最優秀賞とする。
- ② 席次合計が同点の場合は、当該団体間で以下の決選投票を行い、編成別最優秀賞を選出する。
 - ア. 中学生の部は、全審査員の投票による多数決で選出する。
 - イ. 高等学校の部及び一般の部は
 - A : 音楽と視覚の調和の審査員で1団体を選出。
 - B : 演奏の調和・管楽器の技術と表現・打楽器の技術と表現の審査員で1団体を選出。
 - C : 演技の調和・動きの技術と表現・カラーガードの技術と表現の審査員で1団体を選出。このA・B・Cの結果により多数決で選出。

(2) 高等学校の部及び一般の部のグランプリ決定における同点処理

最上位の成績点に同点が生じた場合は、以下の処理を行う。

- ① 当該団体間で以下の決選投票を行いグランプリを選出する。
 - A : 音楽と視覚の調和の審査員で1団体を選出。
 - B : 演奏の調和・管楽器の技術と表現・打楽器の技術と表現の審査員で1団体を選出。
 - C : 演技の調和・動きの技術と表現・カラーガードの技術と表現の審査員で1団体を選出。このA・B・Cの結果により多数決で選出。

3. その他

- (1) 全部門の金・銀・銅及び高等学校の部・一般の部の成績点は、終了後に公開する。

注意事項

- 写真およびDVD撮影販売及び二次使用について
 - ・写真およびDVDの著作権は、一般社団法人日本マーチングバンド協会に帰属する。
 - ・写真およびDVDの撮影販売は、当協会指定業者が行う。
 - ・二次使用については、該当団体の承諾のもと使用することとする。

- 参加団体用記録席について
 - ・詳細が決まり次第、参加団体へ連絡する。

- 傷害保険について
 - ・当協会にて、出演者・係員を対象に傷害保険に加入する。
 - ・補償内容は「大会当日の会場到着時から会場出発時まで」とする。会場までの移動や宿泊中の傷害保険については、各団体が任意でご加入ください。

入場券販売

- 入場料金・一般販売 詳細が決まり次第、当協会ホームページ (<https://www.japan-mba.org/>) に掲載

緊急対策

1. 目的

マーチングバンド全国大会における会場管理の安全を期し、以て不測の事態による人的災害を最小限に軽減するために以下の緊急時対策をとる。

2. 予防体制

- (1) 各担当者は、それぞれのポジション内の整理については、特に注意し、不必要なものは置かないようにする。
- (2) 入場開始1時間前に、役員及び係員全員で、消防器所在などの会場内事情を確認するとともに不審物、危険物の有無の点検を徹底的に行う。多少でも疑わしきものがあつた場合には、大会本部に各担当責任者を通じ連絡すること。
- (3) 開会30分前に再度確認する。

3. 緊急事態発生の場合

(1) 火災発生の場合

- ①火災発生の発見者は、直ちに初期消火体制をとるとともに、臨席の消防官・警察官に通報、また、各担当責任者に連絡すること。
- ②各担当責任者は、大会本部に通報し、大会本部は消防署に通報する。
- ③臨席の消防官または警察官の指示は、各担当者が受け本部に連絡する。
- ④初期消火については、会場内所定の消火器の操作要領を、各担当責任者が関係係員に確認しておくこと。
- ⑤来場者の避難誘導については、大会本部からの連絡（放送）により、来場者を混乱させることなく、あらかじめ定めた通路を使って誘導を行う。

(2) 地震の場合

- ①来場者に対して、まず冷静に対処することを放送・ハンドマイクなどで呼びかけ、本部の状況判断を待ち、避難を要する場合は各出入口を使って館外に誘導を行う。
誘導にあたっては、各担当責任者、臨席の消防官・警察官の指示を受ける。

(3) けが人・病人発生の場合

- ①けが人・病人が発生した場合には、各担当者を通じて大会本部に通報し、その指示を受け、救護係員の到着を待つこと。
- ②各担当者は本部に通報する。
- ③大会本部は、救護班に待機場所を通報し、必要がある場合は、大会本部より救急車の出動を要請する。
- ④救護所は、医務室に設置する。